

## 令和元年度宮城県献血推進協議会議事録

令和2年1月28日午後1時から、ホテル白萩けやきの間において、令和元年度宮城県献血推進協議会を開催した。

- |                     |  |
|---------------------|--|
| 1. 開会               | 薬務課加藤副参事が協議会の開会を告げた。   |
| 2. あいさつ             | 薬務課安藤課長があいさつを行い、薬務課加藤副参事が、本日の出席者数が協議会条例第4条に規定されている定足数である半数を満たし、有効に成立していることを報告、本協議会に使用する資料の確認を行った。  |
| 3-①委員紹介、事務局紹介       | 薬務課加藤副参事が、本日出席している委員と事務局の紹介を行った。委員の任期について、令和3年8月31日までと説明した。  |
| 3-②会長、副会長の選出        | 薬務課安藤課長の進行のもと、条例第3条の規定に基づき、委員による会長、副会長の選出を行った。事務局案が受け入れられ、張替秀郎委員を会長、佐々木とし子委員を副会長に決定した。   |
| 3-③会長のあいさつ          | 会長に選出された張替委員があいさつを行った。   |
| 4. 議事<br>議事録署名委員の選出 | 張替会長が、議事録署名委員として、峯岸委員、渡辺達美委員を選出した。<br><br>【以下、議事の審議状況】   |
| (1)平成30年度献血推進実績について | 議事(1)平成30年度献血推進実績について、薬務課及び血液センターによる説明が行われた。   |
| <u>事務局(薬務課)</u>     | 【資料 冊子】『宮城県の献血』より<br>以下について報告した。 <ul style="list-style-type: none"><li>・平成30年度献血状況について</li><li>・平成30年度献血推進事業の概要について</li><li>・平成30年度都道府県別献血状況について</li></ul> |
| <u>事務局(血液センター)</u>  | 【資料 冊子】『宮城県の献血』より<br>以下について報告した。 <ul style="list-style-type: none"><li>・平成30年度献血状況について</li><li>・平成30年度献血推進事業の概要について</li><li>・平成30年度供給状況について</li></ul>      |

## 平成30年度献血推進実績の質疑応答

- 佐々木副会長 ○献血協力学校の減少について  
献血協力学校（高等学校，大学，専修学校）の減少理由について，説明願いたい。
- 事務局（血液センター） 高等学校に関しては，カリキュラムや授業時間の都合上，協力を得られにくい。こちらで示している28校のほとんどが放課後にご協力いただいている。大学，専修学校に関しても同様の理由である。
- 張替会長 ○10年前と比較する20代から30代の献血協力者数の減少について  
5ページのグラフを見ると，20代から30代の10年前は24,000人いたが，現在は15,000人と半数近くに減っている。少子化だけでは説明がつかない程の減少であるが，何か理由があるのか。
- 事務局（血液センター） 20代，30代の減少というのは，全国的に起こっている。1つの要因として，現代の働き方が影響していると考えられる。正規職員があまりおらず，有期雇用で働いている方が増えている。献血バスを配車しても，有期雇用の方々の協力を頂くことがなかなか出来ない環境がある。限られた社員数のなかで事業を行っている会社が多いことから，若い方の協力に繋がらないと考えている。
- 張替会長 ○目標達成率の100%超えの理由について  
一方で，久しぶりの100%超えに関しては，何が功を奏したのか。
- 事務局（血液センター） 必要な分を必要なだけ確保する形を進めるとともに，ここ4，5年，効率的な採血を目指してきた。献血バスの1台あたりの協力人数が徐々に増えてきている。5年前はバス1台に対し，40名ほどであったが，昨今は45名を超えており，当年度は47名であった。効率的な採血が県内にも浸透していることから，計画以上の採血を行うことが出来たと考えている。
- 張替会長 ほかに質問がない場合は，平成30年度の献血推進実績についてご承認頂いたこととする。
- (2)令和元年度献血推進計画及び献血推進状況について  
事務局（薬務課） 議事（2）令和元年度献血推進計画及び献血推進状況について，薬務課及び血液センターによる説明が行われた。
- 事務局（薬務課） 【資料2－(1)「平成31年度宮城県献血推進計画」及び資料2－(2)

「令和元年度献血推進状況＜事業実績＞」】について説明

事務局（血液センター）

【資料2－（1）「平成31年度宮城県献血推進計画」、資料2－（2）「令和元年度献血推進状況＜事業実績＞」、資料2－（3）「令和元年度の献血実績について」】について説明

令和元年度献血推進計画及び献血推進状況の質疑応答

委員全員，異議なし。

張替会長

質問等がないため，令和元年度献血推進計画及び献血推進状況にご承認頂いたこととする。

（3）令和2年度献血推進計画（案）について

議事（3）令和2年度献血推進計画（案）について，薬務課及び血液センターによる説明が行われた。

事務局（薬務課）

及び

事務局（血液センター）

【資料3「令和2年度宮城県献血推進計画（案）」】について説明

令和2年度献血推進計画（案）の質疑応答

○献血の目標数値の設定について，献血を行う上での制約について

川面委員

今回の献血目標について，前年2，835人増加を計画しているとのことだが，平成30年度に103%と，3年ぶりに目標を達成した要因として，効率的な採血を行ったと，今後も献血バスの効率を上げていくとのことだが，今回の目標数は，そのような取り組みを今後も実施することで達成可能と考えた上での数値なのか。

弊社は年2回，法人として協力してきた。女性限定であったか定かではないが，6ヶ月毎や年3回というような，リピーターになっていただく上での制約があったと思う。その点について，どのように啓蒙，周知を行っていくのか。

事務局（血液センター）

献血の目標数値に関しては，平成30年度に103%の確保が出来たので，差し引きすると2，100ぐらいプラスになれば良いのかと考えたが，非常に厳しい数字であるとも思っている。これまで効率的というところで事業を進めてきたが，それなりの数を確保するためには，献血バスも増やしていかなければならないと考えている。また，特に血小板の確保量が増えているので，複数回献血クラブ「ラブラッド」を十分に活用していきたい。平日の事前予約を積極的に取り組み，確保にあたっていけたらと思っている。

献血回数への制約については，女性は年2回，年800ccとなっている。ほ

とんどの企業は年2回の実施としており、最低でも16週、約4ヶ月の期間を空けて、献血に御協力いただくような計画としている。年3回実施の企業については、3回目の実施時に女性は参加出来ない決まりとなっているので、その点に考慮した計画を立てて実施している。

鹿野委員

○令和2年度からの新鮮凍結血漿の搬送体制について

新鮮凍結血漿について、今までは宮城県のみで対応してきたが、令和2年度からは、全血献血については宮城県・山形県・福島県から確保するということだが、山形県・福島県からの搬送体制が整ったということか。

事務局（血液センター）

成分献血の場合は6時間以内、全血献血の場合は8時間以内の搬送となっているので、山形県・福島県からの搬送は十分に可能と考えている。

張替会長

○若い女性に対する献血実施対策についての提案

若い女性が貧血で献血が出来なかった方やリピーターの方に対し、飲み物ではなく鉄分を補えるサプリメント提供するのはどうか。

事務局（血液センター）

鉄分補給という意味で、軽食的なサプリのようなものを現在も提供している。

張替会長

ほかに質問がない場合は、令和2年度献血推進計画（案）についてご承認頂いたこととする。

5. 閉会

薬務課加藤副参事が協議会の閉会を告げた。

審議内容を明確にするため、議事録署名人が記名押印した。

署名人

---

署名人

---